



令和6年11月～令和7年1月

令和6年11月から令和7年1月にかけて令和6年度北海道大学・北海道地区国立高等専門学校技術職員交流研修を開催しました。

【目的】

研修実施スタッフ：

低温科学研究所 佐藤 陽亮^{*1,2}、工学研究院 中川 直也^{*1}、
創成研究機構 武田 希美^{*1}、総務企画部情報企画課 財原 昇平^{*1}

マルチスキル人材育成プロジェクトの「技術職員を学内外に研修派遣させ、スキルアップやマルチスキル獲得の機会を設ける」という活動目標の一環として、北海道大学と北海道地区国立高等専門学校の技術職員を相互に派遣することにより、技術職員のスキルアップ及びマルチスキル獲得の機会を創出するとともに、技術職員が有するスキルや情報の共有を図り、両機関の連携を強化し、技術職員の交流を促進する。

【研 修】

本研修は事前の準備として、双方の受講者と講師が綿密に研修内容を打ち合わせしてから行う形式が取られ、受講者が興味のある専門分野を重点的に学習する。

今回は函館工業高等専門学校・苫小牧工業高等専門学校・旭川工業高等専門学校が参加し、本学から各高専へ1名ずつ、各高専から本学へ1名ずつ派遣する形式で、計6名（本学3名、各高専1名ずつ）の技術職員が2～3日間の研修を受講しました。苫小牧高専との間では土木系の技術職員が、旭川高専との間では機械系の技術職員がそれぞれ派遣され、また函館高専との間では、函館高専からは化学・分析系の技術職員が、本学からはフィールド系の技術職員が機械系の研修を受けました。また、双方の施設見学、自身の業務に関する発表会等が開催されました。発表会では活発な質疑応答、意見交換が行われました。

受講した各高専の技術職員からは、今回学んだ専門的な知識や高い技術を高専の学生に還元していきたいといった積極的な意見が聞かれ、本学の技術職員からも、高専で行われている学生実験や実習における高いレベルの指導方法や安全教育を、学生実習などに役立てていきたいという感想が聞かれました。

今後、機器の共同利用や設備・技術などに関する情報の共有などで協力・連携していくための繋がりを持つことができ、有意義な研修であったという声も聞かれました。また、スキルアップだけではなく、両機関の連携を深める点でも大変有意義であったことから、両機関の受講者や関係者からは、次年度も研修を継続して欲しいとの声があり、本事業の目的に寄与できたことが伺えました。

本研修は北大時報令和7年3月号（全学ニュースP8）に掲載された。

参加者：北海道大学3名、函館高専1名、苫小牧高専1名、旭川高専1名
（研修実施スタッフを除く）

***1:SD実施専門部会スキルアップ検討チーム**

***2:研究支援人材育成プログラムマルチスキル人材育成プロジェクト**



研修の様子（北大から苫小牧高専）



研修の様子（苫小牧高専から北大）



研修の様子（旭川高専から北大）



研修の様子（北大から旭川高専）



研修の様子（函館高専から北大）



研修の様子（北大から函館高専）

研究支援人材育成プログラム実施専門部会

マルチスキル人材育成プロジェクト

実施専門部会長：	岡 征子	創成研究機構
担 当：	高塚 徹	低温科学研究所
委 員：	佐藤 浩幸	北方生物圏フィールド科学センター
委 員：	遠藤 礼暁	電子科学研究所
委 員：	佐藤 陽亮	低温科学研究所